26 夏秋ミニトマトの収穫ピーク軽減技術の開発と良食味品種の選定

要約

夏から秋に収穫するミニトマトの産地力強化のため、「摘房（てきぼう）」による夏季の収穫ピークの軽減効果と、食味が良い「サマー千果」、「サンチェリーピュアプラス」の品種特性を明らかにしました。

研究成果の概要

1 背景・目的

ミニトマトは全国的に生産が拡大傾向にあることから、産地間の競争が激しくなることが予想されます。これを勝ち抜くためには、

①栽培面積の増加のための省力化技術の導入

②食味が良い品種の導入

などによって、産地力を強化する必要があります。

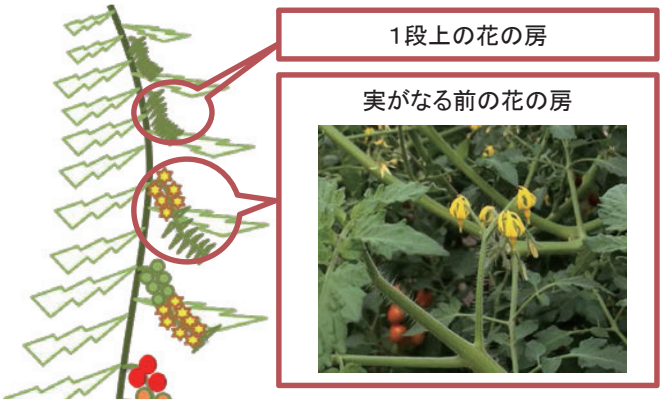

図1 「摘房」する2つの果房

2 内容

- 実がなる前の花の房とその１段上の房を摘み取る「摘房」を６月20日頃に行うと、収穫ピークの７月下旬～８月中旬の収量を２～３割程度抑え、単価が高い９月の収量が２～３割程度増加します（図１、２）。
- 「サマー千果」と「サンチェリーピュアプラス」の2品種は、現在の主力品種「サンチェリーピュア」と比べて、収量が同程度なこと、糖度が高いこと、旨味成分のグルタミン酸が多いことがわかりました。

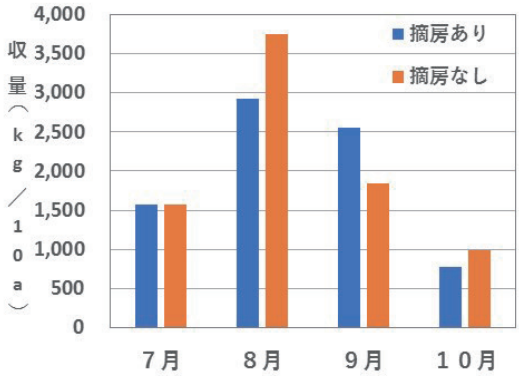

図2「摘房」による収穫ピーク軽減

3 活用等

本成果は「津軽のミニトマト連絡協議会」において、生産者、JA、市町村等の関係機関に紹介され、生産現場へ省力化技術や食味の良い品種の導入が進んでいます。

関連情報

- 青森県では、中南地域県民局が主体となって「津軽のミニトマト連絡協議会」を設置し、ミニトマトの生産拡大や産地力強化に取り組んでいます。
- 中南地域のミニトマトは、平成25年産の作付面積11.9ha、販売額4.1億円から、平成30年産の作付面積19.9ha、販売額8.6億円へ、生産が大きく拡大しています。

農林総合研究所　花き・園芸部
Tel.　0172-52-4346
E-mail　nou_souken@aomori-itc.or.jp

ATC 青森産技 あおもりの未来 技術でサポート